

平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

I. 総括

組織・体制では、今年度から、(公財) 全国高等学校体育連盟登山専門部が新たに加盟し、48 加盟団体としてスタートした。

このことをうけ、昨年 8 月神奈川県箱根山塊で開催された「第 58 回全国高等学校登山大会」に役員を派遣し、高校生の登山大会を視察した。

ワーキング・グループ (WG) では、懸案の「登山部」の各委員会を統合して「安全教育委員会」と「環境委員会」に統合し、平成 27 年度から新体制に移行するために、「登山部統合準備委員会」を設置して検討してきた。登山技術、教育、環境の必要性については合意したが、課題とリソースのギャップが大きく、組織統合だけでは対応できないためリソースの強化策や競技関係業務の移管なども必要で未だ結論が出ていない。現在は具体的な教育のあり方について指導と遭対で年内目標に協議を進めている。

一方、今年度は、特別事業として①日中韓登山技術交流研修会、②IFSC クライミング WC 印西 2014、③アジア山岳連盟 (UAAA) 創立 20 周年記念総会・広島山岳平和祭の 3 事業に取り組んだ。

①の日中韓登山技術交流研修会には、中国 6 名、韓国 13 名、日本延べ 60 名が参加して実施した。今後の課題を残しつつも概ね好評であった。

②の WC 印西では、15 ケ国から 59 名の選手が参加。年間ランキングのポイントを争っているトップ選手のほとんどが出場したので、大会は大いに盛り上がった。

③の山岳平和祭には、9 ケ国・地域から 13 加盟団体と日本から約 420 名が参加して盛大に開催され、所期の目的は達成された。

また、9 月の御嶽山噴火災害事故ではマスコミからの取材攻勢や一般人からのクレームなどが殺到し、応対に多忙を極めた。

事故後設置された、気象庁の火山噴火予知連絡会の火山情報の提供に関する検討会と内閣府の火山防災対策推進ワーキング・グループに本会もメンバーに加わり、登山者の立場から意見を述べた。とりわけ、登山者への登山届の啓発・普及や火山情報の提供が喫緊の課題として問題提起された。

財政では、高体連登山専門部の加盟により、高校生の選手登録収入が増収となった。安定財源確保のグローバル・パートナー・プログラムは 1 社獲得。平成 26 年度は 520 万の赤字予算でスタートしたが、前述したように登録料、協賛金、寄附金等の収入増や日本選手権の中止、海外登山奨励金制度の変更等による支出減の結果、黒字に転換できた。

山岳共済会の加入者伸び悩みの打開については、今年度も山岳共済会と協力してホームページなどで外向けに山岳保険の告知・宣伝を積極的に展開した。平成 27 年 7 月開始目標

に Web からの加入申し込みとクレジットカードでの支払ができるシステム作りをした。

また、これまで関係諸機関・団体と連携しながら取り組んできた「山の日」制定の祝日化法案は、5月23日の参議院本会議で可決され、平成28年8月11日から「山の日」（国民の祝日）として制定された。

公益法人となって2年が経過したが、公益法人としてのガバナンスの確立は、未だ十分とは言えず、競技関連ルールの周知徹底、参加者公募の講習会・事業等の募集方法の公正化など、公益法人としての事業の公共性に鑑み一層の改善が急がれる。

（※以下の事業報告で網掛けしたものは、平成26年度の新規事業。）

II. 事業内容

1. 安全登山普及事業

(1) 青少年育成事業

ア) 高体連登山専門部関連

- ①平成26年度から高体連登山専門部所属の選手登録を開始し、7,594名の登録となった。
- ②第58回全国高等学校登山大会の開催 8/8（金）～12（火）神奈川県・箱根山域、団体男子47校、団体女子46校、総勢754名参加。
- ③第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会（12/23～24、加須市）
男子：36県69校105名、女子：36県60校84名参加 合計189名が出場

イ) ジュニア普及

- ①「少年少女登山教室」の開催（委託実施）平成26年度は、21件の申請・交付
- ②「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山 2014」
8/17（日）～20（水） 国立立山青少年自然の家、立山周辺 子ども39名参加
- ③ジュニア・普及情報交換会
2/14（土）国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者29名
- ④「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2015」
3/27（金）～28（土） 国立那須甲子青少年自然の家、子ども9名参加

ウ) 第5回日本山岳遺産サミット開催への協力

2/28（土）、東京・神田神保町・三井ビル

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集と発信

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・平成26年度実施各競技大会入賞者（1位～3位）表彰
- ・第53回全日本登山体育大会功労者特別表彰：7名

- ・平成 26 年度永年参与感謝状贈呈：3 名
- ・新春懇談会特別功労表彰：12 名
- ・第 4 回日本山岳グランプリの公募と贈賞：故大西保氏（大阪）
- ・平成 26 年度日本体育協会公認スポーツ指導者表彰候補者として蛭田伸一（千葉）、開澤浩義（富山）の 2 氏を推薦（決定）
- ・平成 26 年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者として尾形憲治氏（宮城）を推薦（決定）
- ・「第 64 回日本スポーツ賞」候補者として小林幸一郎氏を推薦（決定）
- ・平成 26 年度ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞候補者として北山真氏を推薦
- ・平成 26 年度 JOC 女性スポーツ賞候補者として遠藤由加氏を推薦
- エ) 平成 26 年度海外登山隊奨励金の公募（2015 年 3 月～8 月出発隊対象）と交付
 - ・TASA BRAKKA JAPAN EXPEDITION 2015 に交付
- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化等の後援（25 件）

（3）安全登山の啓発事業

- ア) 平成 26 年度中高年安全登山指導者講習会（国立登山研修所他共催）の実施
 - ① 東部地区（青森・岩木山）9/26（金）～28（日）、参加者 68 名
 - ② 西部地区（岡山・蒜山）11/1（土）～3（月）、参加者 74 名
- イ) 山岳レスキュー講習会
 - ① 西部地区（富山県・国立登山研修所）9/26（金）～28（日）、参加者 49 名
 - ② 東部地区（群馬県・土合山の家）1/23（金）～25（日）、参加者 41 名
- ウ) 第 53 回全日本登山体育大会・徳島大会
 - 10/11（土）～13（祝） 徳島県・剣山周辺、31 都道府県から 170 名参加
- エ) 平成 26 年度全国山岳遭難対策協議会の共催（文部科学省他）
 - 7/4（金）東京・文部科学省講堂 参加者 300 名
- オ) 研修及び研究会
 - ① 遭難対策研修会兼委員総会 6/28（土）～29（日）神奈川県あしがら勤労者いこいの村 参加者 38 名
 - ② 遭対常任委員夏山研修会 5/10（土）～11（日）上尾市スポーツ研修センター
 - ③ 日中韓登山技術交流研修会（「国際交流事業」の項を参照）
 - ④ 国際委員総会兼第 33 回海外遭難対策研究会
 - 6/14（土）～15（日）長野県山岳総合センター 参加者 60 名
 - ⑤ 海外登山懇談会
 - 11/6（木）国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者 17 名
 - ⑥ 第 53 回海外登山技術研究会

- 3/7 (土) ~8 (日) 国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者 72 名
- カ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査
 - キ) 山岳保険加入者の事故調査 (報告書作成/H P 掲載)
 - ク) UIAA 登山標準の調査
 - ・ UIAA 登山委員会に青山副委員長を派遣
(4/4~5、フランス・シャモニー、11/7~8、トルコ 青山副委員長)
 - ・ UIAA 登山委員会の日本開催 (平成 27 年度) の準備
 - ケ) 遭難事故の調査研究
 - ・ 遭難事故に関する調査研究 (委託事業)
 - ・ 遭難事故の科学的分析
 - ・ ロープ結束の強度検証 (7/12~13、国立登山研修所、参加者 17 名)
 - コ) 遭難事故科学的の研究支援
 - ・ IMSAR 研究助成支援 (継続)
 - ・ 道迷いシンポジウム協力 (3/14、関西大学総合情報学部)
 - サ) 位置探査機「ヒトココ」の開発及び普及
 - ・ 山岳共済会事業として「ヒトココ」のレンタル・サービスを提案
 - シ) 気象庁火山噴火予知連絡会「火山情報の提供に関する検討会」への協力
10/27 (月)、1/27 (火)、2/18 (水)、3/18 (水)
 - ス) 内閣府「火山防災対策推進ワーキング・グループ」への協力
12/1 (月)、1/19 (月)、2/18 (水)、3/19 (木)

(4) 登山指導者育成事業

- ア) 指導員研修会
 - ①指導常任委員研修会
 - ・ 8/23 (土) ~24 (日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者 14 名
※23 日は、競技委員会との合同研修会
 - ・ 12/13 (土) ~14 (日) 神奈川県山岳スポーツセンター 参加者 6 名
 - ・ 1/31 (土) ~2/1 (日) 谷川岳・土合山の家、 参加者 10 名
 - ②氷雪技術研修会 (A 級主任検定・上級指導員養成講習会)
 - ・ 4/26 (土) ~27 (日) 富士山 参加者 27 名
 - ・ 2/14 (土) ~15 (日) 大山 参加者 24 名
 - ③登山技術研修会 (研修会、上級指導員、A 級主任検定)
 - 11/29 (土) ~30 (日) 岡山・玉野スポーツセンター 参加者 39 名
 - ④指導委員総会・研修会
 - 6/7 (土) ~ 8 (日) 東京海員会館 参加者 52 名
 - ⑤安全登山実践講座・基礎編の開催 (東京都山岳連盟で 11 月から開講)

- ⑥指導・競技委合同研修会 4/21（月）、7/14（月）
- ⑦指導常任委員会 毎月第1月曜日
- イ）指導員養成講習会
- ウ）公認山岳スポーツ指導者の養成
 - ①上級指導員・指導員養成講習会の実施
 - ・各岳連（協会）会長に委嘱し年間実施
 - ②AC,SC スポーツ指導者資格の分離について検討
- エ）国立登山研修所研修会の後援（通年）

2. 競技会運営及び競技力向上事業

(1) 競技会運営事業

- ア）競技会・研修会の開催
 - ①第9回山岳スキー競技日本選手権大会
 - 4/5（土）～6（日）長野県・栂池高原、参加選手 53 名
 - ②第28回リード・ジャパンカップ（長崎国体リハーサル大会）
 - 6/7（土）～8（日）長崎県大村市 参加選手 132 名
 - ③第17回 JOC ジュニアオリンピックカップ
 - 8/2（土）～4（月）富山県南砺市桜が池 cc 参加選手 220 名
 - ④全国ルートセッター研修会
 - 8/5（火）～7（木）富山県南砺市桜が池 cc 参加者 12 名
 - ⑤IFSC クライミングワールドカップ 印西大会 2014 の開催
 - 10/25（土）～26（日）千葉県印西市・松山下公園総合体育館
 - 15ヶ国から 59 選手が参加
 - ⑥第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会開催（「青少年育成事業」の項参照）
 - ⑦第10回ボルダリング・ジャパンカップ
 - 2/21（土）～22（日）埼玉県・深谷クライミングヴィレッジ 参加選手：男子 104 名、女子 45 名
 - ⑧クライミング・ユース日本選手権 2015
 - 3/28（土）～29（日）千葉県印西市・松山下公園総合体育館 参加選手：男子 130 名（ジュニア 38 名、ユース A33 名、ユース B33 名、アンダーユース B26 名）
女子 81 名（ジュニア 14 名、ユース A23 名、ユース B20 名、アンダーユース B24 名）
 - ⑨競技委員会ブロック研修会の開催（11月～3月）
 - 11/29（土）～30（日）東北・岩手
 - 12/6（土）～7（日）四国・香川
 - 12/13（土）～14（日）中国・鳥取

- 1/24 (土) ~25 (日) 関東・埼玉
- 2/7 (土) ~8 (日) 北信越・富山
- 2/14 (土) ~15 (日) 近畿・大阪
- 2/28 (土) ~3/1 (日) 九州・大分
- 3/7 (土) ~8 (日) 北海道
- 3/14 (土) ~15 (日) 東海・三重

イ) 国体山岳競技の主管

- ① 第 69 回長崎国体第 1 回基準会議、長崎県大村市 5/17 (土) ~18 (日)
- ② 国体競技運営員認定特別研修会、長崎県大村市 5/31 (土) ~6/1 (日)
- ③ 第 69 回長崎国体第 2 回基準会議、長崎県大村市 6/6 (金) ~7 (土)
- ④ 組合せ抽選会 岸記念体育会館 9/7 (日)
- ⑤ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催 (委託実施)
 - ・北海道・北海道 (7/19~20)、東北・福島 (7/25~26)、関東・栃木 (7/26~27)、北信越・石川 (7/26~27)、東海・岐阜 (7/19~20)、近畿・滋賀 (8/23~24)、中国・島根 (6/20~22)、四国・愛媛 (7/19~20)、九州・熊本 (7/18~20)
- ⑥ 第 69 回長崎国体山岳競技の開催 10/17 (金) ~19 (日) 長崎県大村市
- ⑦ 第 69 回長崎国体以降の開催県への指導
 - ・第 75 回鹿児島国体正規視察 (9/2)

ウ) 競技運営

- ① 競技委員総会 (4/6 (日)、岸記念体育会館、参加者 59 名)
- ② 国体山岳競技規程の一部改定
- ③ 国体山岳競技競技運営員規程の一部改定
- ④ 国体山岳競技への支援協力 (ブロック別研修会講師派遣)
- ⑤ 「日本トレイルランニング会議」設立への協力
 - ・会議開催 (8/2、9/24、2/14)

(2) 競技力向上事業

ア) 日本代表選手選考・派遣

- ① 代表 (S. A. B) の選考
- ② S 代表 (安間佐千、野口啓代、小田桃花) 及び A、B 代表の派遣

イ) 代表選手の派遣

- ① 世界ユース選手権大会
 - 9/19 (金) ~23 (火) ニューカレドニア・ヌメア 小日向監督他 16 名
 - 女子ジュニア: 1 位・尾上彩
- ② IFSC クライミングワールドカップ 2014 (リード、ボルダリング)

3月～11月 世界各地

リト年間ランキング男子：安間佐千 6位、松島暁人 11位、是永敬一郎 20位、島谷尚季 27位、新田龍海 29位

リト年間ランキング女子：小松由佳 9位、野口啓代 10位、大田理娑 11位、小田桃花 16位、尾上彩 19位、田嶋あいか 21位、義村萌 29位、水口僚 30位

ホルダリング年間ランキング男子：藤井快 12位、堀創 13位、山内誠 19位、杉本怜 23位、檜崎智亜 26位

ホルダリング年間ランキング女子：野口啓代 1位、野中生萌 5位、小田桃花 10位、尾上彩 13位

総合ランキング男子：藤井快 6位、杉本怜 8位、樋口純裕 12位

総合ランキング女子：野口啓代 1位、小田桃花 3位、野中生萌 5位、小林由佳 7位、尾上彩 9位、大田理娑 10位

国別ランキング・ホルダリング：日本 1位、フランス 2位、ドイツ 3位、ロシア 4位

国別ランキング・リト：オーストリア 1位、フランス 1位、日本 3位、スペイン 4位

③世界選手権大会（ホルダリング）

8/21（木）～23（土） ドイツ・ミュンヘン 千葉監督他 7名、野口啓代選手 3位

④世界選手権大会（リト、パラクライミング）

9/8（月）～14（日）スペイン・ヒホン リト：千葉監督他 8名、安間佐千選手 3位
パラ：北山監督他 10名、視覚障害部門で日本男子、全階級制覇

⑤アジア選手権大会

10/1（水）～3（金）インドネシア・ロンボク 7選手

女子リト：2位・大田理娑、女子ホルダ：1位・野中生萌

ウ) 国内強化合宿の開催

トップレベルのユース選手の強化を図るため、外国から指導者を招請して国内強化合宿を実施した。(1/4（日）～7（水）静岡・浜松 参加者：選手 16名、スタッフ 8名)

エ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害予防の啓発

オ) トップ・クライマーの体力測定（JISSに委託）の結果を分析して競技力向上を図った。

カ) 競技者育成プログラムの作成とそれに係る事業の検討

キ) オリンピック・プロジェクト・チームの設置

・JOC、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協議

3. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業

ア) 開催

①日中韓登山技術交流研修会

9/4(木)～10(水) 群馬県・谷川岳周辺 韓国13名、中国6名、日本側延べ60名参加

②「山岳平和祭」の開催(「共益事業」の会議等「UAAA 創立20周年記念総会」を

参照) 11/22(土)～26日(水)、広島市 参加者420名

イ) 国際交流

①イタリア大使館「K2映画特別鑑賞会」協力(5/17)

②前英国山岳会会長、ミック・ファーラー氏歓迎会(6/11)

③ネパール外務大臣歓迎昼食会(10/9)

④IFSC 会長、マルコ・スコラリス氏との協議(10/23、2/8～14)

⑤パキスタン・ナショナルデー・レセプション(3/23)

ウ) 派遣

①キルギス山岳会のレーニン峰登山への派遣

7/10～8/4、鈴木百合子、大部良輔

②イタリア山岳会第3回 International Trad Climbing Meet への派遣

9/13～22、イタリア・須田忠明

③BMC International Summer Climbing Meet 2015 への派遣者選考

2015. 5/10～17、英国・ノース・ウエールズ、神林裕、増本亮

(2) 医・科学支援事業

ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援(受講希望者の推薦及びスポーツドクター代表者協議会への出席)

イ) UIAA MedCom

①UIAA MedCom Meeting への出席(5/25(日)、イタリア・Bolzano、増山理事)

②日本のカントリー・レポートの作成

③登山と医療に関する Recommendation(推奨) 邦訳の推進

ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

①国際認定山岳医研修会

②日本登山医学会認定山岳医研修会

③NPO 富士山測候所を活用する会

④JSMM 登山者検診ネットワーク

⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会

エ) 調査研究事業

①トレラン大会の安全基準作成のための調査研究

- ②医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査
 - ③競技力向上事業に係る調査研究（「競技力向上事業」を参照）
- オ) 文部科学省「体力づくり国民会議」への協力（強調月間・10月）

（3）ドーピング防止事業

- ア) ドーピング検査実施（JADAに委託）（下記競技大会で実施）
- ・第28回リード・ジャパンカップ大会（6/8）
 - ・IFSCクライミング WC 印西 2014（10/26）
 - ・第10回ボルダリング・ジャパンカップ大会（2/22）
 - ・クライミング・ユース日本選手権 2015（3/29）
- イ) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など
- ①ドーピング防止研修会への出席（6/13、ベレサール九段、12/19、新大阪丸ビル別館）
 - ②世界アンチ・ドーピング規程のワークショップ（7/10、ベルサール六本木）
 - ③アンチ・ドーピングガイドブックの配布
 - ④TUE（治療目的使用に関わる除外措置）申請の支援
 - ⑤ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援
 - ⑥ドーピング防止研修会の開催（3/28、印西市松山下公園総合体育館）

（4）山岳環境保全事業

- ア) 研修及び研究会
- ①自然保護委員総会の開催（11/22、広島市）参加者 64名
 - ②常任委員現地研修会
6/14（土）～15（日）御岳山ビジターセンター 参加者 24名
 - ③近畿地区自然保護連絡協議会
5/24（土） 兵庫・神戸登山研修所 参加者 19名
 - ④第3回関東地区自然保護交流会の開催
10/18（土）～19（日）、栃木・那須 参加者 38名
 - ⑤第5回指導員研修会
11/8（土）、国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者 70名
- イ) 自然保護の啓発
- ①自然保護指導員制度の推進
 - ・「指導員の手引き」（改訂版）とPRカードの発行
 - ・ニュース・レター（季刊）の発行
 - ②全国環境月間（6月）の実施
 - ③環境省・自然公園指導員制度への協力

- ・自然公園指導員の推薦
- ④山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進
 - ・山岳団体自然環境連絡会への参加（5/23,6/27,7/31,9/11,10/17,11/17,12/19,1/22,2/26）
 - ・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進
 - ・各種環境保護事業の後援と派遣
- ⑤日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力
- ウ) その他
 - ①自然保護指導員規程及び自然保護指導員規程取扱細則の一部改定
 - ②総合的山岳環境保全対策推進（自然公園財団）に係る検討会への協力

(5) その他支援事業

- ア) ウィンター・クラーマーズ・ミートの支援
 - ・1/31（土）～2/2（月） 御在所岳

4. 共益事業

(1) 広報等

- ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第541号（4月号）～第552号（3月号）
 - ・編集内容の検討（第553号から16頁、全頁カラーを予定）
- イ) HPの更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)
 - ・HPのアクセス件数（2014年1月1日～2014年12月31日）：268,593（訪問数）、157,295（ユーザー数）、955,344（頁閲覧数）
 - ※2013年1月1日～2013年12月31日：177,835（訪問数）、95,908（ユーザー数）、727,772（頁閲覧数）

(2) 会議等

- ア) 総会 5/25（日）（岸記念体育会館）
- イ) 理事会 第1回 5/10（土）
 - 第2回 5/25（日）（総会終了後）
 - 第3回 11/9（日）
 - 第4回 3/8（日）
- ウ) 代表者会議 2/15（日）（日本青年館ホテル）
- エ) 全国参与会 10/11（土）徳島県（第53回全日本登山大会開催時）
- オ) 顧問・参与会 1/17（土）（2015年新春懇談会開催時）
- カ) 常務理事会 定例会毎月第2木曜日開催（原則） 年12回開催予定
 - 毎月常務理事会の前に三役会議を開催
- キ) 連絡部会（常務理事・委員長会議） 6/12、9/11、12/11、2/26

- ク) 常任委員会 毎月1回開催
- ケ) WG 全体会議 5/11 (日)
 - ・登山部統合準備委員会の開催 (7/12、8/31、9/20)
- コ) 山岳4団体懇談会 7/16 (水) (平成26年度は日本山岳会が幹事団体)
- サ) 全国「山の日」協議会の推進
 - ・5/23 (金) の参議院本会議で8月11日の「山の日」祝日化法案が賛成多数で可決成立 (28年1月1日施行)。
 - ・5/28 (水) 通常総会、12/12 (金) 運営委員会、1/13 (火) 運営委員会
3/24 (火) 運営委員会
 - ・全国「山の日」フォーラム 3/28 (土) ~29 (日) 東京国際フォーラム
- シ) 国際会議
 - ① 国際山岳連盟 (UIAA) 理事会 5/22 (木) ~25 (日) ドイツ・ミュンヘン (不参加)
 - 国際山岳連盟 (UIAA) 総会 10/16 (木) ~20 (土) アメリカ・アリゾナフラッグスタッフ (小野寺常務理事を派遣)
 - 国際山岳連盟 (UIAA) 理事会 3/25 (水) ~30 (月) スペイン (神崎会長、小野寺常務理事を派遣)
 - 国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) イベント会議 11/15 (土) スロベニア・Kranj (小日向副委員長を派遣)
 - 国際スポーツクライミング連盟 (IFSC) 総会 3/14 (土) スイス・バーデン (神崎会長、小日向副委員長を派遣)
 - ② アジア山岳連盟 (UAAA) 理事会 5/30 (金) ~6/2 (月) 香港 (神崎会長、小野寺常務理事を派遣)
 - アジア山岳連盟 (UAAA) 総会 (11/25 (火)、広島市) 9ヶ国・地域13加盟団体参加
- ス) 2015年新春懇談会 1/17 (土) アルカディア市ヶ谷 参加者140名
- セ) その他
 - ① 国立登山研修所専門調査委員会 (1/8、尾形・北村・増山専門員が出席)

(3) 総務等

- ア) 平成26年度役員・会員名簿の作成
- イ) 組織・管理運営規程の一部改定
- ウ) 役員選考規程の一部改定
- エ) 議事録 (理事会、総会、代表者会議) の整備
- オ) 山岳共済のPR (ヤマレコへブランド・アカウント掲出、ヤマテン Web サイトにバナー掲出、まいたびかろぐに広告、高体連登山専門部広告、HAT-J 機関誌広告、登山月報広告、他)

(4) 財政等

ア) 財源の確保

- ・高体連登山専門部の選手登録による登録料収入のアップ

26年度登録者総数 8,395名 (高体連 7,594名、岳連・協会 602名、個人 199名)

イ) 外部資金の導入 (グローバル・パートナー・プログラム1社獲得)

ウ) 常務理事会において毎月の収支決算の報告

エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理

オ) 山岳共済会 (事務センター) の運営管理・共済会会計

カ) 監事監査 期末監査：4/15 (火) ~16 (水)、4/24 (木)

中間監査：10/8 (水) 監事会議：3/3 (火)